

2019年度事業報告

1. 会議計画

主要な会議である総会、諮問会、理事会、運営審議会および賞選考関連会議を以下のとおり実施した。

1.1 総会

第47回定時社員総会を2019年5月31日(金)に大阪で開催した。主要な議案は、2018年度事業報告と収支決算報告、2019年度事業計画と事業予算についてである。

1.2 諮問会

第8回諮問会を2019年4月25日(木)に横浜で開催した。総会に提出する議案に関し幅広く意見を伺った。

1.3 理事会および運営審議会

理事会を2回(第115,116回)、運営審議会を2回(第25,26回)開催し、総会および諮問会への提出議案の作成、各事業の充実、財政基盤の強化等について審議した。

1.4 賞選考委員会

第24回賞選考委員会を第115回理事会開催前(4月19日)に開催した。賞選考委員会において第43回レーザー学会業績賞(論文賞、進歩賞)及び奨励賞を審議した。学術講演会第39回年次大会の論文発表賞については年次大会実行委員会が選考を行い、結果を賞選考委員会に報告した。賞選考委員会は以上の選考結果を審議し第115回理事会及び第8回諮問会に報告した。

また、第12回産業賞を10月1日から募集し、2月14日の選考委員会にて、優秀賞、奨励賞及び貢献賞につき審議し、推薦候補を決定した。

2. 事業、行事計画

実施した事業、行事計画は以下のとおりである。

2.1 編集委員会および会誌出版

会誌「レーザー研究」を年12冊(第47巻4～12号および第48巻1～3号)、毎月中旬に発行した。このため、編集委員会を12回(第469～480回)開催し、企画編集、進捗フォロー、次号グラ刷りのチェック等を実施した。開催日は毎月中旬とし、原則として東京と大阪で交互に開催した。

2.2 研究委員会および研究会

研究委員会は4回(第242～245回)実施した。研究会については11回(第532～542回)開催が予定されていたが、541回・542回は新型コロナウイルス流行拡大のため、中止(但し、投稿された論文は既発表の扱い)となった。単独開催の研究会では資料「研究会報告」を作成し、研究会当日に参加者に販売するとともに、年間購入予約者に頒布した。研究会開催にあたっては、アピール箇所を明確にしPRに努めるとともに、希望する多くの方が参加できるような場所での開催を心掛け、さらなる参加者数の拡大に努めた。

2.3 技術専門委員会

技術専門委員会を17件(継続15件、新規2件)実施した。うち1件が年度末で活動を終えた。学会HP上に各委員会の設立・継続にあたっての目的を明らかにし、賛同者を募り、学会内コミュニティ形成のための基盤作りに努めた。

2.4 学術講演会年次大会

第40回記念大会は、併設展示会「Laser Solutions 2020」と併せ、2020年1月20日(月)～22日(水)の平日に、仙台国際センター(宮城県仙台市青葉区)で開催した。シンポジウムは過去最大の14テーマが企画された。レーザー学会が訴求したい内容が、外から見て分かり易いように分野キーワードの見直しもを行い、X分野:「複合・新規領域」を新設した。

2.5 国際交流

Optics&Photonics International Congress(OPIC) 2019をパシフィコ横浜会議センター(横浜市)にて4月22日～26日に開催した。また、レーザー研究の国際的振興のため、欧米、およびアジア・太平洋地区の関連学協会との研究交流を推進した。

2.6 調査研究

CLEO 2019等各種国際会議に参加する会員からの情報収集により、レーザー技術および関連技術に関する海外

調査を実施し、その結果を会誌「レーザー研究」第47巻10号に掲載した。

2.7 レーザーセミナー

レーザー技術の基盤の拡大と普及を目指して下記セミナーを開催した。

(1) レーザー特別セミナー

本技術セミナーは、2019年4月24日～26日に開催の“レーザーEXPO2019”に併設して、「レーザーの基礎に重点を置くとともに、レーザー応用技術、産業界への普及例、および最新の製品開発のトピックスまでを網羅した特別セミナーを開催した。

(2) レーザー普及セミナー

レーザー関連科学技術に関する基礎と最新動向を全国規模で展開すべく必要に応じて支部主体の活動を推進している。今年度は関西支部・中国四国支部連合若手学術交流研究会で実施した。

(3) レーザー夏の学校(レーザー学会共主催、日本光学会協賛)

光・レーザー分野の研究に携わる学生及び若手研究者の交流、研究意識向上を目的として、当学会として教育及び学術交流の観点から本行事に支援を行った。第26回レーザー夏の学校は10月5日～6日神奈川県厚木市で開催され、2010年以降最多の65名の参加者があった。

2.8 展示会

(1) レーザーEXPO 2019

レーザー機器の展示会“レーザーEXPO2019”をパシフィコ横浜展示ホール(横浜市)にて4月24日～26日に開催した。

(2) Laser Solutions 2020

第40回記念年次大会において、レーザー機器、書籍等の展示会“Laser Solutions 2020”を併催し、31社の出展があった。

2.9 表彰、認定、賞推薦・助成推薦

(1) 表彰

第43回レーザー学会賞(業績賞・論文賞、業績賞・進歩賞、奨励賞)、学術講演会第39回年次大会論文発表賞および学会活動に貢献のあった者の表彰を行った。これと併せて、レーザー関連技術及び事業において顕著な功績のあった者を表彰するレーザー学会産業賞の表彰を4月25日に「レーザーEXPO2020」会場にて行った。

(2) 上級会員/フェロー認定

2018年度に申請のあった候補者は称号審査委員会で審査され、第115回理事会に諮られ、承認された。会員各位に関しては本人同意を得たのちに、フェローについては定時総会にて認定書授与を実施した。

◇第5回フェロー認定者:2名、会誌およびホームページにて告知

◇第5回上級会員認定者:4名、会誌およびホームページにて告知

(3) 賞推薦、助成推薦

レーザー学会会員に各種学術賞、研究助成案件を広く案内し、研究業績から優れた成果を上げたと思われる方、および学会に対し貢献のあった方を、学会として積極的に推薦し、今年度は以下の方が受賞した。

◇第32回松尾学術研究助成(京都大・足立俊輔氏)

2.10 支部活動の展開

地方の支部における会員加入促進のため、東北・北海道、中国・四国、九州支部主催の年次大会では、開催地域の方で新規に会員に加入される方に限り、入会金および大会年度のみの年会費を免除する制度を導入した。

2.11 関連学協会等との連携および協力

国内他学会、研究団体および関連業界との共催、協賛、後援による研究会、講演会等の開催を通じて、関係団体との連携、協力を推進した。ジョイントシンポジウムを双方の学術講演会で実施する取り組みは、昨年度から始めた日本光学会に加え、今年度新たに応用物理学会フォトニクス分科会とも行った。

3. その他

3.1 会員動向(年度比較)

賛助口数は前年度実績より微増。会員数については月別推移から年次大会の影響が大きいことがわかる。会員数に大きな変化はないが、正会員の伸びが思わしくない分、学生会員数で補っているのがわかる。(第39回年次大会でポスターセッションが初導入) 会員数における民間の占める割合は昨年度と変わらず3割強で、光・レーザー応用分野の幅広い取込みが課題。

2019年度(2020年3月)

個人会員 1,269名(正会員 1,132名、学生会員 132名、名誉会員 5名)、賛助会員 93社(117.75口)

(参考)

2018年度(2019年3月)

個人会員 1,250名(正会員 1,126名、学生会員 119名、名誉会員 5名)、賛助会員 92社(116.75口)

2017年度(2018年3月)

個人会員 1,262名(正会員 1,139名、学生会員 119名、名誉会員 4名)、賛助会員 90社(115.75口)

H28年度(H29年3月)

個人会員 1,243名(正会員 1,128名、学生会員 111名、名誉会員 4名)、賛助会員 88社(114.75口)

H27年度(H28年3月)

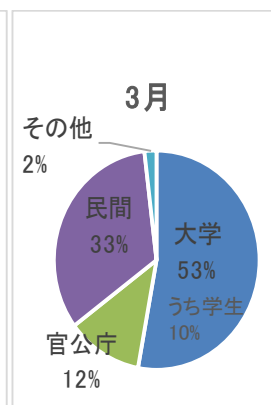
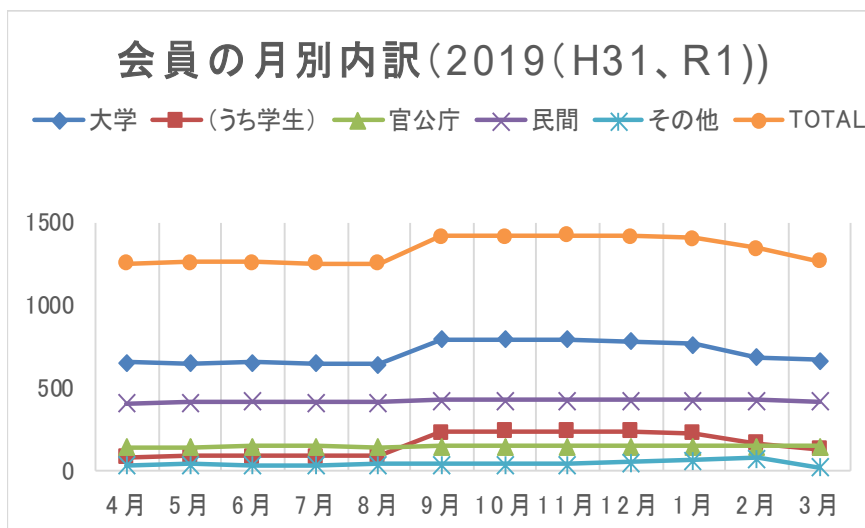
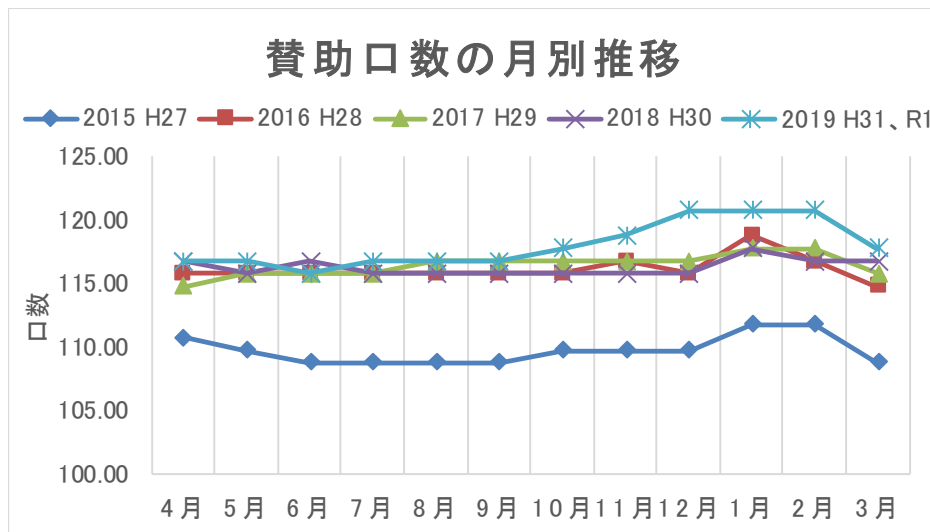
個人会員 1,261名(正会員 1,148名、学生会員 108名、名誉会員 5名)、賛助会員 85社(108.75口)

H26年度(H27年3月)

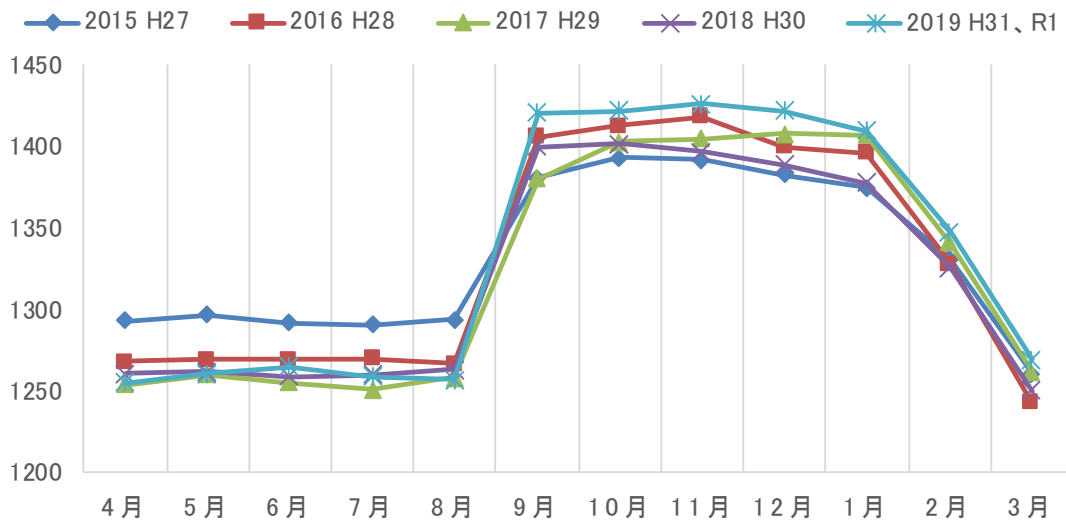
個人会員 1,292名(正会員 1,164名、学生会員 124名、名誉会員 4名)、賛助会員 85社(107.25口)

H25年度(H26年3月)

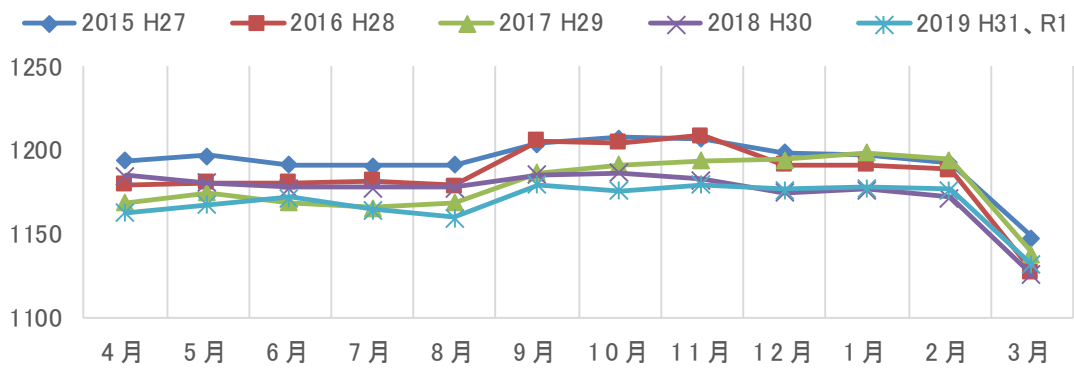
個人会員 1,288名(正会員 1,167名、学生会員 118名、名誉会員 3名)、賛助会員 81社(102.25口)



全会員数推移



正会員数推移



学生会員数推移

